

症候群で慢性肝炎と硬化性胆管炎の合併例の報告があるが、本例も今後唾液腺腫脹の出現等に注目する必要がある。

#### 4. 心房性ナトリウム利尿ペプチドの心内膜線維彈性症における免疫組織学的検討

(第2病理) 西川 俊郎・笠島 武  
(放射線科) 広江 道昭  
(第2内科) 成瀬 光栄・成瀬 清子  
(心研) 中島 裕司

心房性ナトリウム利尿ペプチド (ANP) の心室における分布についてはまだ不明な点が多い。われわれは乳幼児期にしばしば重症心不全を呈する心内膜線維彈性症 (EFE) の心室筋における ANP の存在および分布について免疫組織学的に検討した。

EFE 剖検例の心筋標本のパラフィン包埋切片を、抗ヒト ANP 抗体を用いて酵素抗体法 (ABC 法) により免疫組織染色を行うと、14例中10例 (71%) の心室筋に ANP 陽性細胞が認められた。陽性細胞は心内膜側に多く分布し、その細胞横径は陰性細胞に比べて有意に大きかった。ANP 陽性反応は、細胞内の核周囲に集中するか、細胞質内にびまん性にみられる場合が多かったが、細胞の辺縁に観察される例もあった。

ANP 陽性細胞は高度に拡張した心室の心筋に多く認められ、その発現と重症心不全との間に密な関連があると思われた。

#### 5. 甲状腺乳頭癌由来 thyroglobulin に対する mouse monoclonal 抗体の免疫組織化学的検討

(病院病理科) 相羽 元彦・平山 章  
(内分泌外科) 金地 嘉春・藤本 吉秀  
(放射線科) 日下部きよ子  
(内分泌内科) 佐藤 幹二

甲状腺乳頭癌から得られた thyroglobulin (TG) に対する3つの mouse monoclonal 抗体 (P1, 2, 3) の免疫組織化学的特徴を、市販のヒト TG に対する rabbit polyclonal 抗体 (pTG) と比較した。

結果：1次抗体との反応前に正常家兔血清 (×5) または pTG (×5) を作用させると、後者において、P1, 2, 3の染色性は著しく減弱した。3抗体は、pTG と基本的には同様の染色性を示し、必ずしも乳頭癌の染色性が優れていることはなく、逆に癌において低い場合もあった。3抗体は抗原量の多い部位では pTG より強い染色性を示し、少ない部位では弱い染色性を示した。Dyshormonogenetic goiter またはその疑いの4例のうち3例は、pTG と P2では濾胞上皮に強い染

色性を認めたが P1による染色性は全て或いは限局性に消失した。

討論：3抗体は pTG の抗原認識部位の一部を認識するものと思われる。P1を他の TG に対する抗体と組み合わせて染色することにより、dyshormonogenetic goiter や乳頭癌の亜型の診断に役立つ可能性がある。

#### 6. 喉頭乳頭腫の1例

(耳鼻咽喉科) 岡村 玲子・高山 幹子・  
石井 啓夫・吉原 俊雄  
(病院病理) 平山 章

症例は22歳の男性。平成元年2月始め頃より出現。徐々に嗄声が増悪するため同年8月3日当科初診となる。喉頭ファイバースコープにて、右声帯に小腫瘤を認めため精査目的で8月21日当科入院となる。8月22日全身麻酔下にてマイクロラリゴサージャリー施行した。採取した組織の病理組織学的検査の結果、若年型喉頭乳頭腫と診断された。また、ABC法を用いた免疫組織学的検査および in situ hybridization 法によるウイルス核酸の検出を試みたところヒトパピローマウイルス6型が証明された。本症例では、腫瘍の声門下方への進展が予想され、経口からの挿管による操作では、十分なレーザー手術は不可能なため、喉頭截開術を行った後に、病変部位のレーザー焼灼を行った。術後は3週間頃より嗄声も軽快し、腫瘍は縮小した。今後もお経過観察が必要である。さらに、ヒトパピローマウイルスのタイプ同定の確認のため、現在 DNA 描出による検索を行っている。

#### 7. Suprasellar epithelial cyst の1例

(脳神経外科)

久保 長生・内布 英昭・村垣 善浩・  
仁田 仁恵・荒 徹昭・加川 瑞夫

中枢神経系には arachnoid cyst, ependymal cyst, choroid epithelial cyst, enterogenous cyst, respiratory epithelial cyst, などが知られているが、この鑑別診断については電顕検索が不可欠である。今回われわれは下垂体腫瘍として診断された cystic lesion を経験したので、その組織学的所見について報告する。

症例は57歳の女性。下垂体腫瘍の診断のもと手術がなされ、嚢胞性であり、透明な液が見られた。組織学的所見は立方上皮細胞からなる被膜で一部に重層上皮細胞が見られた。PAS染色では一部に陽性細胞をみた。免疫染色では GFAP, S-100, NSE 共に陰性であった。電顕所見は microvilli を有する一層の細胞で細胞間には junctional complex が見られ、その外側には